

①都道府県・市区町村名	岩手県	②補助事業の種類 (どちらかに「〇」)	I	地域の文化遺産次世代継承事業
			㊦	世界文化遺産活性化事業
③実施計画の名称	「世界遺産平泉」保存活用推進事業			
④実施計画期間	平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月			
⑤過去の補助事業実績				
平成 2 3 年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業				千円
平成 2 4 年度文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業				千円
平成 2 5 年度文化遺産を活かした地域活性化事業				千円
平成 2 6 年度文化遺産を活かした地域活性化事業				千円
平成 2 7 年度文化遺産を活かした地域活性化事業				7,088 千円
⑥計画の実施状況（概要）				
※平成 2 8 年度までに実施した計画の実施状況を記載してください。				
1 「世界遺産平泉」の情報発信、人材育成事業				
(1) 平泉の文化遺産のパンフレットの作製（平成27年度～平成28年度）				
①平成27年度：平泉への来訪者に対し、世界遺産平泉の価値や構成資産を紹介するためのパンフレットを作製。ガイド施設や観光案内所等で配布した。				
②平成28年度：昨年度の内容に加え、「平泉の文化遺産」への交通アクセス情報等の充実を図ることで、より一層の来訪者が各資産に足を運んでもらえるように内容を変更した。また、英仏併記版の「平泉の文化遺産」パンフレットについても作製し、配布した。				
(2) 世界遺産平泉についての高校生英語スピーチコンテスト（平成27年度～平成28年度）				
高校生の世界遺産に対する興味関心を高め、海外からの旅行者等に対応できる人材育成に資するため、英語による平泉の紹介をコンテスト形式で実施。併せて、参加高校生等によるディスカッションを実施し、青少年の立場から、世界遺産についての情報発信を行った。				
(3) 岩手県南地域の学生を対象とする世界遺産講座「ときめき世界遺産塾」事業の開催（平成27年度～平成28年度）				
一関市、奥州市、平泉町及び金ヶ崎町の小学5年生～中学3年生を対象に「平泉の文化遺産」の歴史や文化の体験及び学習を通じて、世界遺産の拡張登録及び保護活用を推進するリーダーの育成をねらいとして、講座を開設した。併せて、前述の2市2町の高校1～3年生及び岩手県内の大学1～4年生を対象として、ときめき世界遺産塾講座の案内・引率役（ジュニアリーダー）の育成に係る講座を行った。				
(4) 観光ガイド養成講座				
新人ガイド養成講座で、講義・実技等を行った。平泉文化遺産センターにおいて、中尊寺・毛越寺僧侶、平泉文化遺産センター職員らを講師に15日間の講義・実技を行った。講習後に理解習得・及び適正を判断するレベルチェック診断を行い、合格者をガイドの会のメンバーとして迎え入れた。今後共に世界遺産平泉の魅力の発信を行っていく。				
2 「世界遺産平泉」の普及啓発事業				
(1) 平泉文化遺産フォーラムの開催（平成27年度～平成28年度）				
世界遺産平泉に関する最新の発掘調査や研究の成果について、県民を対象に報告会（フォーラム）を開催するとともに、平泉の文化遺産共同研究の研究成果についても併せて報告をした。				

(2) 児童生徒向け世界遺産平泉紹介冊子の作製（平成27年度～平成28年度）

授業や課外活動等の学校教育において、教員が世界遺産平泉の指導の参考とするほか、児童生徒が自発的に学習するための小冊子を作製し、岩手県内の小中高等学校等に配布した。また、有識者による会議を開催し、学校教材としての精度を高めた。

(3) 「平泉の文化遺産」復元映像化事業（平成28年度）

「平泉の文化遺産」の世界遺産登録5周年記念事業の一環として、最新の仮想現実（VR）の技術を用いて、往時の「平泉」を体感できるシステムを構築した。

無量光院の本堂や浄土庭園、毛越寺前の大通りの賑わい、柳之御所遺跡及び金鶏山の映像再現とともに、各遺跡の情報提供を盛り込み、県内外問わず多くの人々の効率的な学習を推進することを目的としている。また、海外からの来訪者に対応するため、英語、韓国語、中国語（簡体・繁体）・タイ語の5か国語で作成した。

将来的な構想として、利用状況等を考慮した上で町内の各遺跡に整備を進める。

(4) 「平泉の文化遺産」活性化情報発信事業（平成28年度）

世界遺産登録5周年を契機として、更に増加が期待される国内外の来訪者に「平泉の文化遺産」の魅力を発信するとともに、構成資産等の情報が容易に得られるよう多言語に対応したホームページを作成した。

特にも、海外からの来訪者を当地域に呼び込むための手段として、英語、中国語（簡体・繁体）・タイ語の4か国語で作成し情報発信した。作成に当たっては「来訪者管理戦略」に基づき、世界遺産の構成資産や拡張資産などを、外国人が理解しやすいように見所や理解のポイントなどの詳細を、画像を中心に紹介し、平泉の歴史と文化・伝統をより深く理解してもらえるような内容とした。

⑦事業実施による効果等の検証・分析結果

※平成28年度までの計画の実施により得られた効果や実施以後の状況（人数、理解度、活用状況、人材育成などの指標に基づき、定量的・定性的な効果）を具体的に記載してください。

1 「世界遺産平泉」の情報発信、人材育成事業

(1) 「平泉の文化遺産」パンフレットの作製

平成28年度目標値：アンケート調査より、平泉に「また来訪したい」という回答が9割以上

結果：回答者数：551名

92.9%（512名） 達成率 103.2%

アンケート調査から読みとるに、多くの訪問者のリピーター化が図られていることが分かる。これは、「平泉の文化遺産」についての情報発信・普及啓発を継続的に行ってきたことも起因していると考えられるが、そのため当該事業のパンフレットの作製・配布が訪問者のリピーター化に効果があることを示している。

(2) 世界遺産平泉についての高校生英語スピーチコンテストの開催

平成28年度目標値：アンケート調査より、以下の質問項目に対し、「はい」と答えた生徒が全体の7割以上。

① 外国からの観光客に英語で案内したいと思いますか。

② 嚙家の講座を聞いて、平泉の「極楽浄土の世界」について理解できましたか。

③ ②について、さらに実際に平泉の各遺産を見学、踏破したいと思いますか。

結果：回答者数11名

① 100%（11名） 達成率 142.8%

② 100% (11名) 達成率 142.8%

③ 100% (11名) 達成率 142.8%

今回の事業実施を通して、参加生徒は平泉の「極楽浄土の世界」、つまり平泉の基本理念の「平和」の理解が深まり、かつ「平泉の文化遺産」についての興味が喚起されたことが伺える。また、参加した生徒全員が「平泉の文化遺産」及び外国からの訪問客に対し英語で案内することに意欲を示しており、なかには「外国でのボランティアを通して、平泉の素晴らしさを伝えたいと思う」と、回答する生徒も見られた。このことから、本事業を実施したことで、平泉について世界に向けて情報発信する人材の育成に貢献できたと考えられる。

(3) 世界遺産講座「ときめき世界遺産塾」事業の開催

平成 28 年度目標値：(小中学校生徒対象) アンケート調査で「平泉の文化遺産に興味を持った」「今後、平泉の文化遺産を大事にしていこうと思った」という旨の回答が、参加した生徒総数の 8 割以上。

(高校生以上対象) アンケート調査より「平泉の文化遺産及びそれにかかる活動に興味を持ったか」という問いに対し、「はい」と答えた高校生・大学生が全体の 8 割以上。

結果：(小中学校生徒対象) 100% 達成率 125%

(高校生以上対象) 100% 達成率 125%

○ 塾生に対する愛護意識の醸成

第 5 回講座(平成 28 年度)終了後に塾生から「平泉の文化遺産を大切にしていこうと思ったか」などのアンケート調査を行った結果、塾生の 100%が「はい」と回答した。また、どのような理由で大切にしようと思ったのか、という調査項目に関しては、

- ・「平泉の文化遺産」を実際に見たことから 45%
- ・砂金採りなどの体験活動から 24%
- ・「平泉の文化遺産」の説明を受けたことから 29%

との回答結果となり、当事業をとおして、居住地域に近い文化財であっても実際に訪れる機会が少ない、地域の小・中学生に対して文化財の価値に触れる機会を提供することで、「平泉の文化遺産」への愛護意識の醸成に大きく寄与する効果があった。

○ 高校生・大学生のジュニアリーダーに対する継承意識の醸成

ときめき世界遺産塾に参加したジュニアリーダーから「ときめき世界遺産塾に参加して、「平泉の文化遺産及びそれに係る活動」に興味を持ちましたか」とのアンケート調査を行った結果、回答のあったジュニアリーダー全てから、「興味を持った」との回答を得た。また、このことから当事業によって、参加したジュニアリーダーである周辺地域の高校生・大学生に対する「平泉の文化遺産」継承に係る意識醸成への効果が見られた。

(4) 観光ガイド養成講座

平成 28 年度目標値：養成されたガイドの人数が 10 人。

結果：養成されたガイドの人数が 8 人。(達成率 80%)

今年度ガイド養成講座を行ったことで、新たに 8 名のガイドが加わり、34 名の体制になった。平成

28年4月から9月末までのガイド件数は、27年度1,303件に対して1,390件の前年比106.7%を微増傾向にあるが、ガイド数が増加したことを受け、今後の繁忙期におけるガイド不足の懸念が解消された。このことは、おもてなしを心がける意味でも大きな効果が得られた。また、新人ガイド養成講座受講生募集の記事を県内マスコミ主要三社（岩手日報・岩手日日新聞・胆江日日新聞）に掲載頂き、県内（滝沢市・北上市・一関市）からの受講の応募があった。このことは、全県の規模で平泉の世界遺産を支えているという県民意識のあらわれとも考えられ、さらなる県民の機運の醸成の点でも大きな効果が得られたと考える。

2 「世界遺産平泉」の普及啓発事業

(1) 平泉文化フォーラムの開催

平成28年度目標値：以下、アンケート調査より

① 平泉町、一関市、奥州市以外の都市からの参加者が5割以上

② かつ、「平泉への関心が高まった」という回答が7割以上

結果：回答者数 127名

① 盛岡市、仙台市等からの来訪者 72% (79名) 達成率：144%

② 「平泉の文化遺産」への関心が高まった 81% (103人) 達成率：115.7%

アンケート調査結果から判断すると、「平泉の文化遺産」を有する3市町以外から多くの方々が参加したことが分かる。これは、ポスター、チラシのほか新聞の広告掲載等様々な方法で広報をした結果であると考えられる。かつ、アンケート回答者の8割以上の方が、「平泉の文化遺産」について関心が高まったと回答していることから、当該フォーラムが、「平泉の文化遺産」の理解促進に効果をもたらしていることがわかる。

(2) 児童生徒向け世界遺産紹介冊子の作製について

平成28年度目標値：「小冊子を活用している」と答えた学校が、配布した学校の9割以上。

結果：活用度91%（達成率101%）

学校側は、「生徒の現地学習の予習教材」や「平泉や世界遺産に関する授業で副教材」として使用している。このような形で、当該小冊子が副教材として使用されていることは、児童・生徒に「平泉の文化遺産」について触れる機会・考える機会を提供していることが考えられる。また、「難しい言語が多い」等の課題が指摘されている一方で、生徒が「興味深くガイドブックを見ていた」という声もよせられていることを踏まえると、児童・生徒に対して県内の世界遺産についての興味の喚起にも一役買っていることが分かる。

(3) 「平泉の文化遺産」復元映像化事業

完成させたコンテンツを平成29年度以降、平泉町内2カ所に設置し、貸し出しを行う予定。今後は、その活用度（コンテンツ利用者数）を図っていくものとする。

(4) 「平泉の文化遺産」活性化情報発信事業

平成29年度以降、作成した多言語対応のホームページを公開する。今後は、「平泉の文化遺産」の魅力を発信に繋げ、世界遺産登録以後減少傾向にあったホームページアクセス数及び来訪者数の増加に努めていくものとする。